絵本『ぞうくんのさんぽ』でブック・ピクニック1 報告書

絵本『ぞうくんのさんぽ』でブック・ピクニック１

参加者募集のチラシより

「ここはどこ？なになに？フーン！」

海のような？森のような？工場のような……？のメディアテーク。

ところで、みなさんは絵本『ぞうくんのさんぽ』を知っていますか。

ぞうくんがなかまと、ほのぼの会話を楽しみながら散歩をする絵本です。

絵本『ぞうくんのさんぽ』を読んだあと、みんなでメディアテークを散歩します。

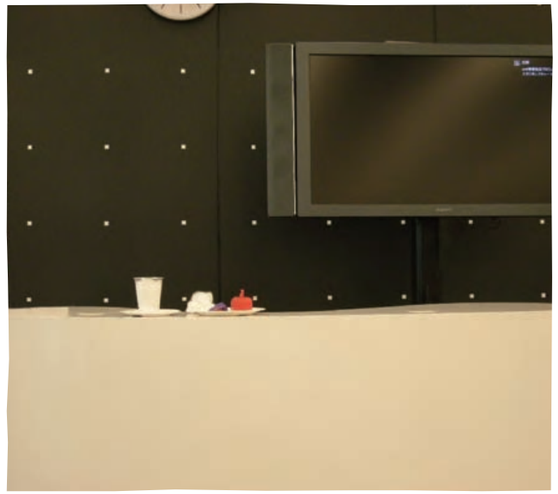
そのあと、散歩をして自分が感じたことからイメージして、

なりたいモノをつくって、なりきり散歩。そのあと、みんなで写真を撮りあって、

ブック・ピクニック集を作ります。

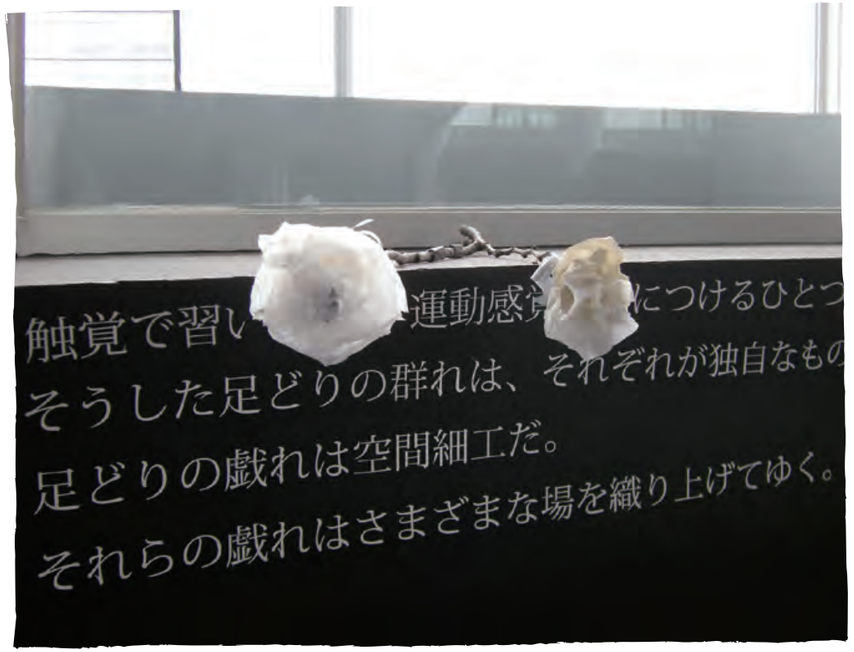
ファシリテーター　関口怜子（ハート＆アート空間"BE"主宰）

日時：2009 年 6 月 14 日（日）10 時から 12 時
対象：4 歳以上の幼児、小学生、どなたでも 20 名（申込多数の場合は抽選）
　　目や耳の不自由な方も参加できます。
場所：せんだいメディアテーク７階スタジオ b
費用：無料



ぞうくんのさんぽで
ブックピクニック

ここはどこ??


触覚で習い
運動感覚
につけるひとつ
そうした足どりの群れは、それぞれが独自なもの
足どりの戯れは空間細工だ。
それらの戯れはさまざまな場を織り上げてゆく。

どこなの??

そ゛っくんのさんぽ。しってるかな？

そ゛っかばちゃんのおはなしは……。

みみで きける！

めでも きける！

はなで かんじる！

かぜがつかまえた！！

スッケスケ!!の メディアテーク

とおりすがりの人にも

ゆっくー!!!

たてもののなかなのに

なんだか

森森浴してるみたい！

だれかいるかいの。

なんてこがほっとするね。

おいしい
い！

たたみのうえで
みんな、だいかぞくの
ようでしょう？

じゃじゃ〜ん!!
でーきた。！

いらっしゃいませ。
りんごにぶどうにアイス

メディアカフェで
ひとやすみ。
ひとやすみ。

おはなもありますよ。

ほら。
すごいでしょ？
ぼくのだいすきな
あかの電車だよ。

コロコロ

りこりこ

おくちべりすぎケーキやプリン

いちれつにならべたかったんだわ。

あれ？

カニさんのはさみを

うでにつけたら いいい

バルタン星人になっちゃうよ！！

みてみて。

カッコいいでしょう ＊

みてみて。なんだとおもう？？

ないしょ。

てんとうむし

わたあめ。

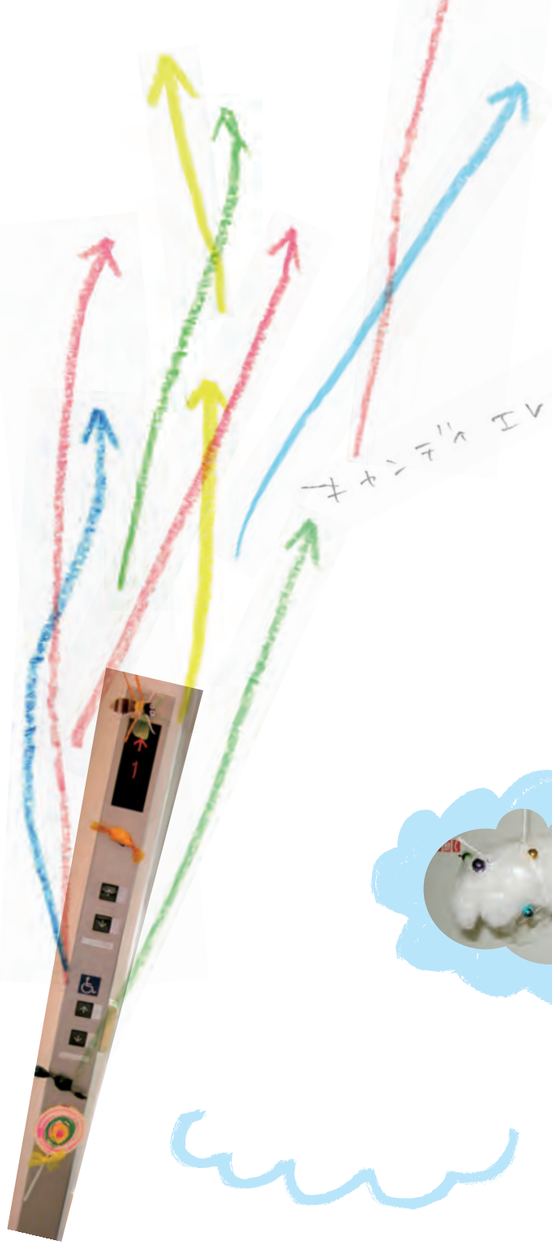
ゴーヤ。

ふうりん

いろんなものが あつまって。

おもちゃも にっこり。

みんなも にっこり。



キャンディ エレベーター。うえへまいりまーす。

みてみて。

こんなところに

おんぷがついてるよ。

ひらり ひらり

ライブラリーも森の中。

ちょうちょも本をのぞいてる。

ライブラリーの風鈴も完成

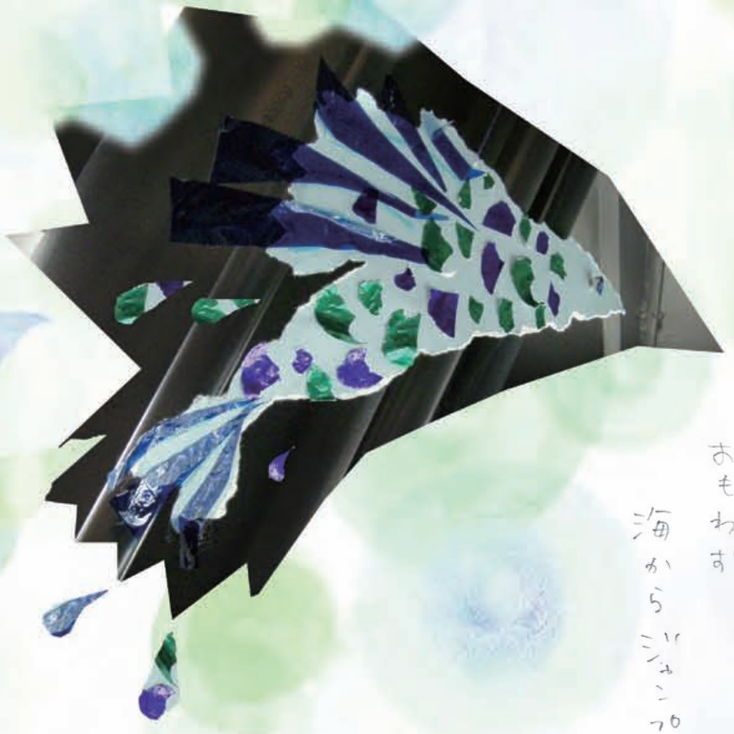
扉をしめると「ちりん」と音が！

僕のおへやは海の中。

こんなところにかにさんが！

大きなハサミで　チョキチョキチョキ。

みんなのことをよいでるよ。



おもわず
海からジャンプ。

あー、たのしかった。

またね。

絵本「ぞうくんのさんぽ」でブック・ピクニックによせて

私は西公園の向かいでビーアイをしている“ぞうかば”です。ガラスと鉄でできているメディアテーク！まるで透明な宝石箱のようなこの場所で、どんな事をして遊びましょうか？というねらいのワークでした。

ところで、「メディアテーク」は何みたい？と尋ねたら、どんな風に答えるのでしょう？子ども達に聞いたら、即『飛行場』だと。メディアが発着する場だなんて言い得ていて、子どもはさすがだなぁと。

どの階も同じでない床と天井と照明。テーブルや椅子、そしてゴミ箱の類まで目に入るすべてが主張する空間は、目には見えない何かがすんでいそう。建物・建具・空間そして人間がツンツン刺激しあって、共有する使い方のデザインで設計されたこの空間で、ぞうくんのようにお散歩しながら仲間を誘い、耳をパフパフ、鼻をブルンブルン、目をじーっと凝らして…、不思議や楽しさを見つけ、創造力をプラスし、それぞれの場を愛でながら味わいました。①壁でしきらない公共の場の使い方、あり方を探る。②個人の持つ、普段は潜んでいる、五感のフル回転。③一人では気付けない、成しえない事を、グループ活動で創り出し、場を更に生かして…。合言葉は「ここはどこ？なになに？フーン！」何かを見つけてピーンときたら、エスプリとコチョコチョをきかせ、もっとステキで自由な空間に変身させ、最後はなりきり散歩をね。

エレベーターを「潜水艦」にみたて、ザリガニが侵入したよと語ってくれた子。７階５番チューブのまわりに「カフェ」を作り、いつのまにか仲良くなったお友達とケーキやお茶で楽しんでいる子。メディアテークをお城にみたててティアラを被ったお姫さまになり、１階の受付カウンターの横で案内しますと微笑んでいる子。「海」「空飛ぶ電車」「私のへや」……。最後はみんなの作ったものを見て、「一緒に遊びたいな」とわた飴やりんご飴を作って、メディアテークをお祭りに。満足げな笑顔が忘れられないし、これぞ、みたて遊びとなりきり遊びの醍醐味！

うれしい驚きの時間を共有した子ども達だけでなく、応援してくださったボラさん達にも、仙台のアートの遊び場はメディアテークと、まるで、鮭のようにこの場にまた戻ってきて、愉快で創造的に使い込んでほしいなという願いも込めたのでした。

関口怜子（ハート＆アート空間 "BE" 代表）

市民図書館とメディアテークの連携事業――「ブック・ピクニック」とは何か？

≫メディアテークより

複合施設の利点は多様な機能を横断的に活用できることにある。特に図書館を含む複合施設は、図書館を日常的に利用する人の多さや、ふらりと寄れる来易さ（敷居の低さ）があり、それが大きなアドバンテージとなっている。そこに他の要素を絡めて相乗効果を生み出すことができれば、その効果は計り知れない。しかし実際はこれだけのポテンシャルがあるにも関わらず、それぞれのサービスが、活動が、別々に展開するのみで、複合による具体的な成果に至った事例はまだ多くない。むしろ共通の課題として取り上げられているように思う。その原因はいろいろ考えられるが、複合施設内に複数の運営者が存在することや、それぞれの施設特性の違い、たとえば図書館サービスが確立された制度となっていることに起因すると思われる。

せんだいメディアテークは、図書館を含む複合文化施設であり、仙台市民図書館*と、それ以外の部分（メディアテーク‡）で運営者が異なる。「一つの施設なのに階によってルールが違う」というような問題が生じれば、横断的に活用する以前に基本的な運営のルールづくりから協働で取り組まなければならない。図書館との連携はこうした課題を組織間で調整する仕組みづくりから始まったといえるが、３年ほど前に両館の職員からなる事業チームが発足した。未だ試行錯誤の状態であるが、いくつかの協働事業が行われており、この取り組みの一つが「ブック・ピクニック」である。

ブック・ピクニックとは、図書館の本に着想を得て館内ピクニック（ツアーののち造形活動）をし、その活動のなかから新たな絵本をつくるものである。単なる事実の記録に留まらず「絵本仕立て」の記録を制作（フィクションも可）し、そこで生まれた本が図書館に所蔵、web に公開され、本のデータから閲覧者が自分用の絵本を作れるようにしたいと考えた。今年は３回ピクニックを開催し、絵本はワークショップの活動として参加者が制作したり、実験的に第三者がワークショップに同行し、その様子をもとに絵本を制作したりした。本冊子はファシリテーターのアイディアをもとに、図書館とメディアテークの職員が協働で制作したものである。なお、この冊子が記念すべき初の共同出版物となる。

図書館とメディアテークの橋渡しをするこの動きが、いずれは、拡張する＝未来の図書館の活動になりうるのか、今後の活動は web サイトで追ってほしい⁂。

薄井真矢（せんだいメディアテーク企画・活動支援室 学芸員）

≫市民図書館より

市民図書館とメディアテークの連携事業として３回行われた“絵本『ぞうくんのさんぽ』でブック・ピクニック”は、ファシリテーターによる絵本の読み聞かせの後、図書館を含むメディアテーク館内を散歩し、そのときのテーマによってイメージを広げ、作品を創作するワークショップ。

ブック・ピクニック１は、館内を散歩しながら各自が持つメディアテークのイメージを膨らませ、自分のなりたいものや飾りたいものを作って好きな所に置き、ちょっと素敵なメディアテークをつくる。ブック・ピクニック２は、目隠ししながら館内を散歩し、壁や床や椅子や点字ブロックなどおもいおもいの場所を触り、その触れた感じを布や毛糸やシールやビニールなど、様々な素材を使って絵本にする。ブック・ピクニック３は、館内を散歩しながら面白い形を探し、ふわふわと浮かぶ不思議な紙を自分が見つけた形に切り取り、閉館後の図書館で４階から３階に向けて紙を落としてみんなの前で発表する。という内容で、どの回の参加者も、これまで何気なく通っていた場所で新たな発見をしたり、普段は入ることのできない裏側の場所で目を輝かせたりしながら、自由な発想でメディアテークのイメージを作品にして楽しんでいた。

今回のブック・ピクニックは、これまで図書館とメディアテークが行ってきたような一緒にイベントを行っておしまいという形ではなく、一歩進み、ワークショップの様子を記録し、図書館職員とメディアテーク職員がそれをもとに絵本のような作品を協働で制作し、web で公開するところまで行う予定だ。

図書館とメディアテークでは運営者が異なるため、連携を行う際は組織による調整が必要となるが、今後もお互いの特性を活用した連携事業を行い、これまでの図書館のイメージとは一味違った、複合施設の強みを生かした事業展開ができることを期待している。

吾妻由美（仙台市民図書館）

*3･4 階市民図書館（2 階児童書コーナー含む） ‡1 階オープンスクエア、2 階映像音響ライブラリー、目や耳の不自由な方への情報提供サービス、5･6 階ギャラリー、7 階スタジオ、シアター

⁂ web サイトは平成 22 年 4 月 1 日公開予定。http://www.smt.jp/libsmt/

このワークショップで紹介した絵本

『ぞうくんのさんぽ　こどものとも傑作集13』

作・絵　なかの ひろたか

レタリング　なかの まさたか

出版　福音館書店

「絵本『ぞうくんのさんぽ』でブック・ピクニック」概要

絵本を読んで館内ツアー後、内容の異なる3つの造形活動を行った。

※目や耳の不自由な方も一緒に参加できるアート事業として参加者を募集

「絵本『ぞうくんのさんぽ』でブック・ピクニック（手話通訳・要約筆記つき）」

2009年6月14日 10:00―12:00　せんだいメディアテーク7階スタジオb　参加者38名（ほかボランティア15名）

「メディアテークのどこが気になる?」「ここに何があったらおもしろい?」を考え、そこに「あったらいいもの」をつくり、館内に設置。

「絵本『ぞうくんのさんぽ』でブック・ピクニック 2（目の不自由な方へのサポートあり）」

2009年10月18日 9:45―12:30　せんだいメディアテーク7階スタジオb　参加者19名（ほかボランティア15名）

目隠しをして館内探検。耳や足の裏でみた館内を参加者一人ひとりが一冊の触察絵本として表現。

「絵本『ぞうくんのさんぽ』でブック・ピクニック 3（手話通訳・要約筆記つき）」

2009年12月13日 18:30―20:00　せんだいメディアテーク3階仙台市民図書館　参加者26名（ほかボランティア3名）

館内のおもしろい形を探して、浮遊紙ペーパーに切り取り、閉館後の図書館で飛ばして遊ぶ。

「絵本『ぞうくんのさんぽ』でブック・ピクニック１」報告書
発行日｜2010 年 3 月 25 日
編集｜仙台市民図書館、せんだいメディアテーク
編集協力｜関口怜子
デザイン｜山口直子（仙台市民図書館）、伊藤裕（せんだいメディアテーク）

問い合わせ先｜せんだいメディアテーク
980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1
電話 022-713-3171　ファックス 022-713-4482
office@smt.city.sendai.jp
www.smt.jp